

学校・医療者連携で実現する小学生とともに「いのち」を考える授業実践

内田 敬子

¹東京医科大学 細胞生理学分野

²慶應義塾大学医学部 小児科

現在の学習指導要領では、子ども達に対して「今求められる資質・能力」には、3つの柱「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力など」・「学びに向かう力、人間性など」が掲げられ、「子ども一人ひとりが社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となるために必要な力を育む」ことが求められている。どのような未来を創っていくのか目的を自ら考え出すことや、答えのない課題に対して、多様な考えを受け入れ多様や他者と協働しながら目的に応じた自身にとっての納得解を見いだすことができる力を育むことによって、予測できない加速度的に変化する社会にも対峙していけるようなたくましく生きる子どもたちを育成することが学校において求められている。

子どもの心臓病への医療・医学の発展を目指し医師・看護師などの医療従事者が参加する日本小児循環器学会では、「子どもたちに生きる力を育むために、私たち医療者に何ができるか」を基本テーマに、学校との連携の形を模索してきた。その活動の一環として、2018年から2020年に全国遠隔配信教育セミナー「学んで救えるこどもの命 PH Japanプロジェクト」を実施し、2022年から新規に学会内に「学校と教育の連携委員会」を立ち上げて今日にいたる。本講演では、これらの活動をきっかけに演者が経験した小学生向け「いのちの授業」を紹介する。私たち小児循環器医が学校教諭と連携し、小学生とともに考え作り上げる「いのちの授業」の可能性について述べたい。

ASUKAモデルと小学校での救命教育

辻野 智香

さいたま市立高砂小学校

平成23年9月29日、さいたま市立小学校6年生の桐田明日香さんが、駅伝の課外練習中に倒れ、救急搬送された後、翌30日に死亡するという大変悲しい事故が起きました。事故から1か月ほどのちに医師を中心とした「事故検証委員会」を設置し専門家の視点から事故対応を検証していただき、翌年2月に報告をいただきました。

桐田さんの御両親と当時の教育長は、対話の中から、なぜ起こったのかだけではなく、その先の再発防止に結び付けたいという強い思いを一つにしました。そして平成24年4月に、明日香さんのご両親にも参加していただいて体育活動時における事故対応テキスト作成チームを設置し、教育実践者及び保護者の視点から、再発防止策を明らかにした教職員研修テキスト「ASUKAモデル」を作成しました。私はその際に、教育委員会の指導主事としてこのチームにおり事例分析や作成に関わり、養護教諭として学校現場戻りASUKAモデルの実践を継続しています。

ASUKAモデルの構成は大きく次の4つの項で構成しています。

- I 日常における重大事故の未然防止
- II 体育活動時等における重大事故の未然防止
- III 事故発生時における対応
- IV 事故発生後の対応

本日は、I日常における重大事故の未然防止(1)教職員等の危機管理に関する意識や資質の向上の中から「児童生徒を対象とするAEDの使用を含む心肺蘇生法の実習の実施」について本校の取組みをお伝えします。さいたま市の救命教育の大きな特徴は、小学校段階から小・中一貫のカリキュラムに基づき「中学校1年生の段階で、全ての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができる」ようにしており、毎年1万人、これまでに5万人を超える生徒が「普通救命講習I」の修了証を取得しています。